



2021年11月

- [今回のリリースでの新機能 \(1 ページ\)](#)
- [このリリースでの変更点 \(1 ページ\)](#)
- [不具合 \(2 ページ\)](#)

今回のリリースでの新機能

Cisco Spaces のこのリリースに新機能はありません。

このリリースでの変更点

ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

コントローラからのアクセスポイントの部分的なインポート

- この機能強化以前は、[AP prefix] オプション ([Connect WLC/Catalyst 9800 Directly] または [Connect via Spaces Connector] のいずれか) を使用してロケーションを追加していた場合に、
 - AP の数がライセンス制限を超えると、AP のインポートが許可されませんでした。この機能強化により、ライセンス制限に従って AP をインポートできるようになりました。
 - ライセンス制限に達すると、コントローラで使用可能なライセンス制限を超える AP はロケーション階層と同期されませんでした。この機能拡張により、[Unconfigured] にある AP よりも、共通のプレフィックスを持つ AP が優先されるようになりました。[Unconfigured] にある AP は同期プロセス中に削除され、コントローラで共通のプレフィックスを持つ AP の同期が優先されます。

影響分析

- アカウントで使用可能な訪問データが30日未満の場合、イベントの作成は制限されます。このシナリオでは、デフォルトのデータが表示されます。

Mapservice

Mapservice では、次の機能強化が加えられました。

- Cisco DNA Center から Mapservice への重複ペイロードのインポートが制限されます。[Import History] セクションに、「Warning: Import ignored due to no changes in request payload」というエラーメッセージが表示されます。



- (注) Cisco Spaces では、ロギングに Apache の Java ライブラリ「log4j」を使用するようになりました。脆弱性 [CVE-2021-44228](#) は現在、Apache の「log4j」のバージョン 2.0 ~ 2.14.1 に影響します。この脆弱性に対処するため、Cisco Spaces で Apache の「log4j」バージョンが 2.16.0 にアップグレードされました。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

Cisco Spaces のこのリリースでは未解決の不具合はありません。

解決済みの不具合

Cisco Spaces のこのリリースで解決された不具合はありません。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。